

中田さんの学級では、最近のニュースから興味をもったことについて調べ、新聞にまとめることになりました。次は、中田さんのグループが「トキ」についてまとめた【新聞の一部】です。これを読んであとの問いに答えましょう。

【新聞の一部】

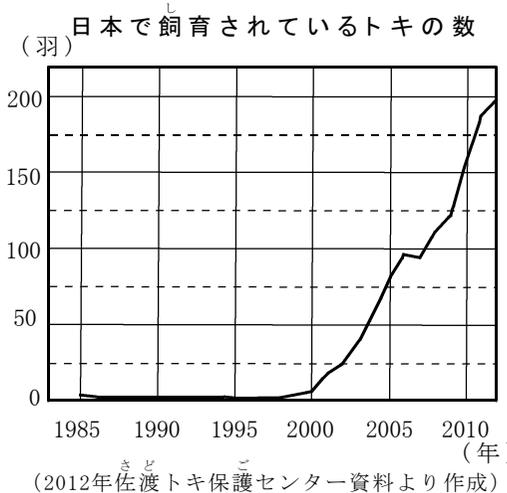
トキ新聞

平成二十四年十二月五日
五年一組 北西 中田
高山 山村

A

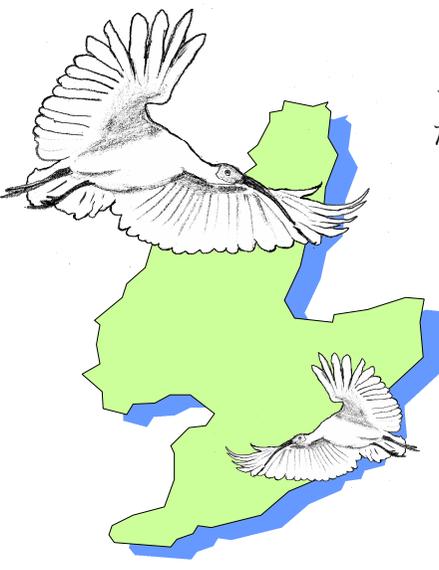
トキは、日本を代表する鳥で、ニッポニア・ニッポンとも言われています。顔と足が赤く、サギに似た鳥です。特に独特のうすもも色をしたきばれいな羽の色は、とき色と呼ばれています。長い間、絶滅の危機にありましたが、日本では、今から百五十年ぐらい前まで全国にたくさんトキがいました。しかし、日本のトキは急に減ってきました。最後のトキも死んでしまいました。中国からトキを借

りるなど、さまざまな努力により、現在日本では、トキの数は二百羽までにふえてきています。



トキが減った理由

- 羽が、工芸品やほうき、ふとんなどに使われた。
- 食用にされた。
- 木が切られて巣を作ることができなくなつた。
- 自然かん境がこわされたり農薬の使用がふえたりして、えさとなる小さな生物が減つた。



トキを守る①

新潟県佐渡島の「佐渡トキ保護センター」を中心に、中国からトキを借りて、次のようにならまいます。活動が続けられ、管理がよくなる。野生のトキの飼育訓練が、今年五月には、野生のひな返す訓練が、誕生し、巣立ったことが、

トキを守る②

トキが住みやすいかん境を作るために、地元の小学生も大人も協力して次のような活動をしています。田の整備に使っていない木の世話をし、トキが巣を作るための木を

ニュースにも取り上げられています。

トキ保護の年表

- 1960年 トキが国際保護鳥に決まる。
- 1967年 トキ保護センターを建設。3羽の飼育を開始する。
- 1999年 中国から2羽を借りる。中国から来たトキにヒナが1羽生まれる。
- 2003年 日本産最後のトキが死亡。
- 2006年 18羽のヒナが生まれる。
- 2008年 10羽のトキを自然にもどす。(27年ぶり)

※国際保護鳥
世界で保護すると決めている鳥



エサは、小川や田んぼに
いるかえるやどじょう、
小魚だよ。

トキについて調べた感想

絶めつするかもしれないなかつたトキがふえてきたのは、「佐渡トキ保護センター」と住民による二つの活動があったからだと思いました。その活動とは、

B

多くの人がトキを守るために努力していたので、びっくりしました。トキが住み続けることのできるかん境は、多くの生き物にとっても、人間にとっても、安心できるものだと思いました。

